



第2回復興支援ボランティア 参加者の声（アンケートより）

期間：2011年7月2日～7月5日

参加者数：22名



今回の活動に参加した感想をお書きください

本気で「体」を使った支援活動、想像よりずっと身体的にも精神的にもハードでした。それでもやっぱり「人のつながり」のあたたかさ、人間のチカラを実感することができました。人間は決して無力ではない、学生も決してダメな若者ではないことを自分自身納得できて良かったです。

改めて被害の甚大さ、人の無力さを痛感しました。でも、その中でも地域の人々が助け合いながら前向きに歩んでいる事、ボランティアに感謝するやさしさ、心の広さがあること、いろんなつながりが出来て、新しい仲間が出来たことなど、ネガティブな印象だけでなく、ポジティブな捉え方も出来るようになりました。

被災者の方の“本当の声”を聞くことが出来て、このボランティアを通じて様々な発見が出来て良かったです。今回は、ずっとボランティアに行きたいけれど、一人だとどうしたらいいのか分からないと思っていた私にとって本当にありがたい機会となりました。

今回参加する前は「迷惑をかけたくない」という気持ちが大きく、実際に現地に行くことに抵抗を感じていましたが、実際行ってみればニーズもありますし、経験の無い私たちでも出来ることが沢山あるのだと実感しました。逆に、今まで何をしていたんだろうと感じました。

中身の濃い時間を過ごすことが出来、“感激”しております。私の力でどのくらい役に立てるのか、不安でしたが、この3泊4日で個人の力と集団の力の間には、単なる足し算以上のものがあるのだと知りました。友人、そして海外の人に「今の東北は、こんな様子で、何が必要です！」とはっきり自分の言葉で言えるような気がします。

地震が起きて津波が来た時の自らの経験を話してくださって、リアルな話で本当にここに津波が来たんだな、すごく大変辛い思いをされたんだな、と実感しました。そんな辛い思いをされて、まだ3ヶ月くらいしか経ってないのに、あんなに辛い顔などせず、私たちに色々話して下さった地域の方々の強さに心動かされました。また、「ここは地域の結びつきが本当に強いんだ。」とおっしゃっていて、このような非常時に当たり前のように助け合える地域のつながりの強さをうらやましく思いました。

地元の方が流した涙は私たちに対する感謝の気持ちもあったと思うが、震災の事などを思い出した悲しい涙であるとも思いました。最初の旭町ではご婦人達がとても笑顔でいらして、元気で良かった。笑顔になれるような環境になったのかなと思ったがやはりそれは違って、悲しみというのは消える事が無いのだと思った。今、私が出来る事は何かと考えた時に、私は帰った時に多くの人に伝える事だと思う。なぜなら、この貴重な体験をさせていただいたのに、自分だけで消化してしまうのはダメだと思うし、被災者の方も忘れないで下さいとおっしゃっていたからです。

地域の方々と交流できた事、同じような気持ちで震災ボランティアに参加したメンバーと出会えた事が、私の中で、参加してとても良かったと思えました。

津波の被害に遭われながらも、笑いを交えながら私たちにお話を聞かせて下さった地元の方々の強さにはっとさせられました。

今後も何らかの復興支援に関する活動を続けたい理由はなんですか？

今回、東日本大震災のボランティアに参加させていただいて、活動を終えた時に、目に涙を浮かべながら、お礼を言っていた時に、私は短い時間での活動でしたけれど、こんなに人から感謝されたのは初めてで、これを通してもっと人々の役に立ちたいと思ったからです。

2日間で出来た活動はほんの少しだったかも知れませんが、それでもやってきたことはゼロではないと感じました。少しずつ、少しずつ前に進んでいる事を肌で感じ、これからもその前に進むための一歩をお手伝いしたいと思います。

現地に実際に行ってみて、30人弱という人数であってもできることはわずかなことでした。まだまだボランティアは不足していると感じたので、また参加したいと思ったからです。

今回のボランティアに参加して一度だけでは駄目だと感じました。これからの予定も考えて、出来る限り、参加したいと思います。

何もしていないより、何か少しでも活動することの大切さを今回痛感したので、一回きりではなく、継続して復興支援ボランティアに参加したいです。

実際に現地の状況を見て、まだまだ支援の手を必要とする人達がたくさんいて、自分の力は小さいかもしれないが、少しでも力になれる事を今回のボランティアに参加して感じたから。

あまりの被害の大きさに、復興に多大な時間とボランティアの力が必要である事を現場で実感した為。

今回の活動のように龍谷大学から機会を作っていただければ、親も安心して見送ってくれるので、機会があればと思います。

どういった活動をしたいと考えていますか？

今一番、東北の方々が震災でお困りになられています、日本各地でも今この瞬間にも助けを必要としている方々がいらっしゃるののでそういった人達に少しでも役に立つことがしたいです。

「震災」をきっかけに、ボランティアを多くの学生に広め、それを何らかの形でその人の日常に落とし込む。本当に人生を変えるボランティアコーディネートを色々な経験で磨きたいです。

周りの人に伝える。地元で出来る支援をする。被災地に行く。何が出来るかを自身・みんなで考える。忘れない。

被災地に赴き、その地で、役に立つボランティア活動。京都で出来るボランティア活動。

ニーズがあれば、何でも力になりたいと思っています。個人的には、仮設住宅での集会所等での傾聴ボランティア等、地域の方々の心に寄り添うボランティア活動をしたいです。

側溝掃除や瓦礫撤去も大切だと思いますが、それよりも被災者が一番望むことをやっていきたい。

今回のような側溝掃除、瓦礫撤去等。

石巻市や宮城県内、また岩手県や福島県など震災がひどい地域に行きたいです。

七ヶ浜ボランティアセンターの事務作業を手伝ったことから、ボランティアのためのボランティアもおもしろいと感じました。

今回のような現場での作業や、ボランティアセンターでの作業や保育園に行くなど、復興支援に関する事で、自分が出来ることは何でもしたいです。

現地のボランティアさんに対する援助(物資)などや現地の方の話を聞く機会を設ける。実際に現地を訪れるなど。

募金活動・物産購入・現地活動など幅広く長期的に考えています。

再びボランティアに行くことも考えていますが、今の活動を骨太なものにできるように私が出来る事をお手伝いさせていただきます。

今回のツアーをきっかけに、ボランティアをやっていきたいと元々思っていました。また、友人達と集まる際にも、自分の体験を伝える事もしたいと思います。

今回の活動のように、地域の人々に喜んでいただける活動がしたいです。